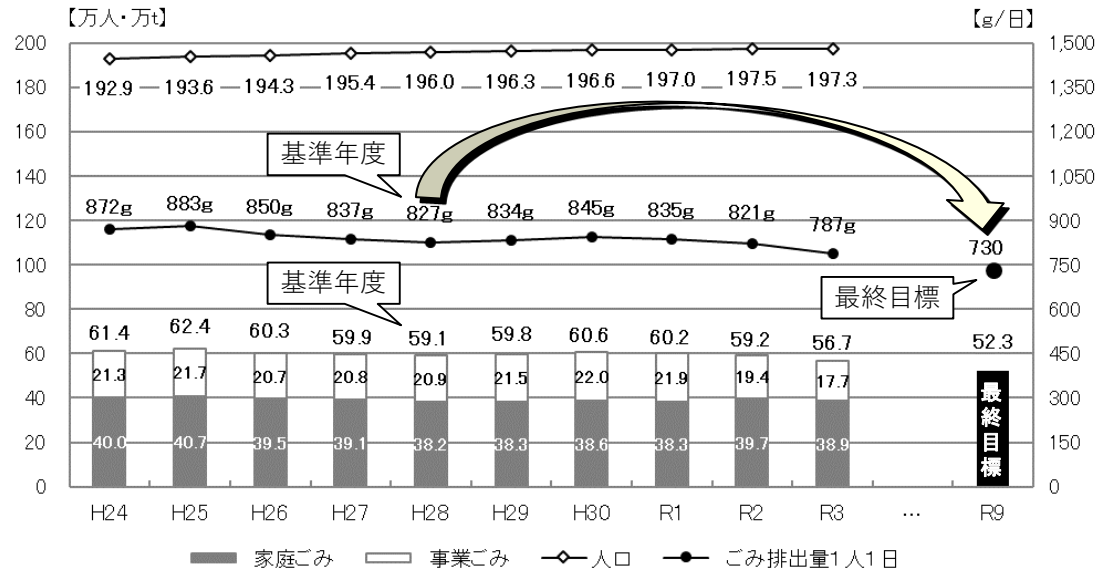


スリム目標の状況

(R3年度の表示は速報値)

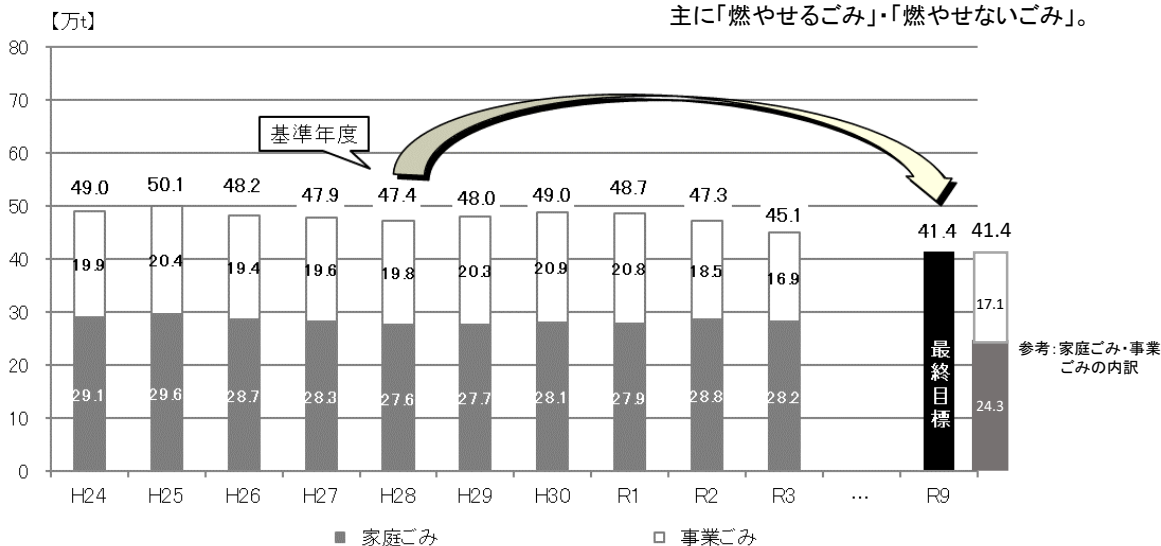
1 ごみ排出量の減量目標 【H28⇒R9で6.8万tの減(1人1日当たり100g減)】



- 家庭ごみは、H30から若干の増加傾向。これは人口増や新型コロナウイルスによる巣ごもり需要の影響と推察される。
- 事業ごみは、H30、R1と高めで推移していたが、R2から減少傾向。新型コロナウイルスの影響の他、R3は埋立地における廃石膏ボードの受入停止が主な要因。
- 全体の排出量は、事業ごみの大幅な減少により、R3で初めてH28を下回ったが、家庭ごみの減量は進んでいない状況がうかがえる。

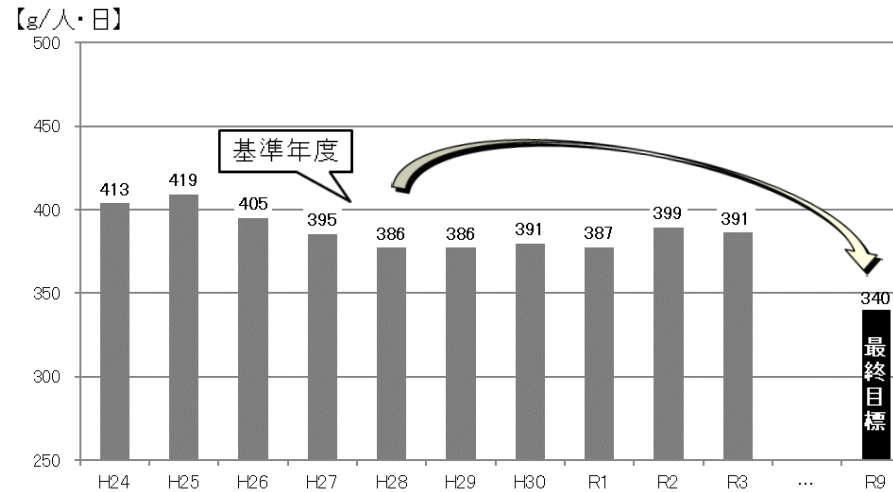
2 廃棄ごみ量の減量目標 【H28⇒R9で6.0万tの減】

※ 廃棄ごみ:焼却処理・埋立処分されるごみ。
主に「燃やせるごみ」・「燃やせないごみ」。



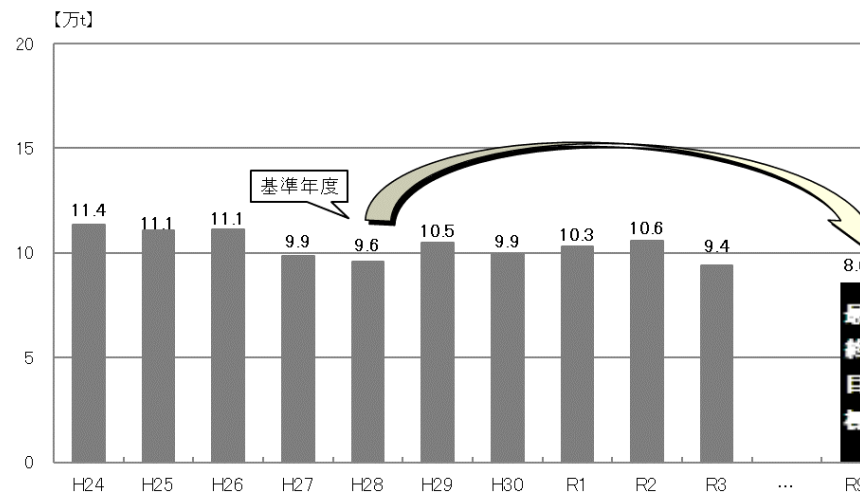
- 廃棄ごみ量についても、家庭ごみ・事業ごみともに上記1のごみ排出量と同じ状況。
- 事業ごみの減少により、R3は45.1万tと初めてH28を下回った。

3 家庭から出る廃棄ごみ量の減量目標 【H28⇒R9で1人1日あたり46gの減】



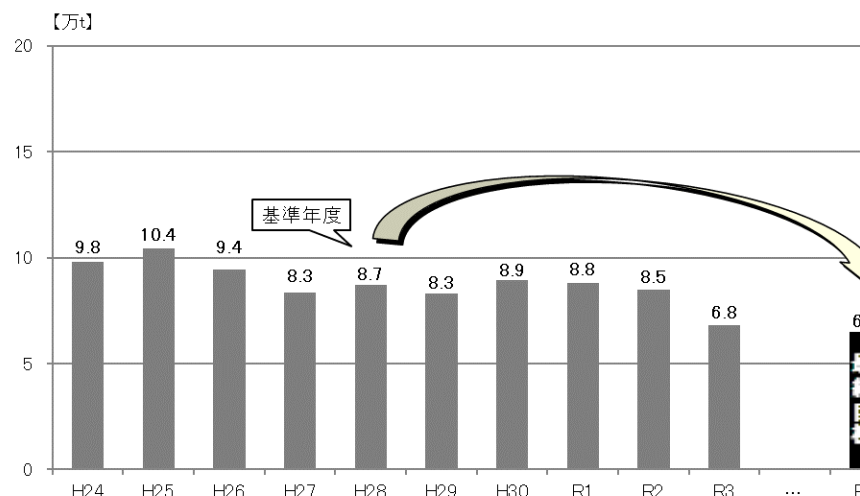
- 1人1日当たりの廃棄ごみ量は、H30からほぼ横ばいの状況であり、減量が進んでいない状況。
- R2、R3は、新型コロナウイルスによる巣ごもり需要も影響していると推察される。

4 家庭から出る生ごみ量の減量目標 【H28⇒R9で1.0万tの減】



- H30からほぼ横ばいの状況。R3が9.4万tと初めてH28を下回った。
- しかしながら、生ごみに含まれる食品ロス量(モニター指標参照)については、ほぼ横ばいであることから、調理くずが減ったことが理由となるが、減の理由は推察できない。

5 埋立処分量の減量目標 【H28⇒R9で2.2万tの減】



- 廃棄ごみ量がほぼ横ばいであることから、埋立処分量も横ばいの状況。
- R3は、受入産廃であった廃石膏ボードの受入停止により、R3は6.8万tと大幅な減少となった。

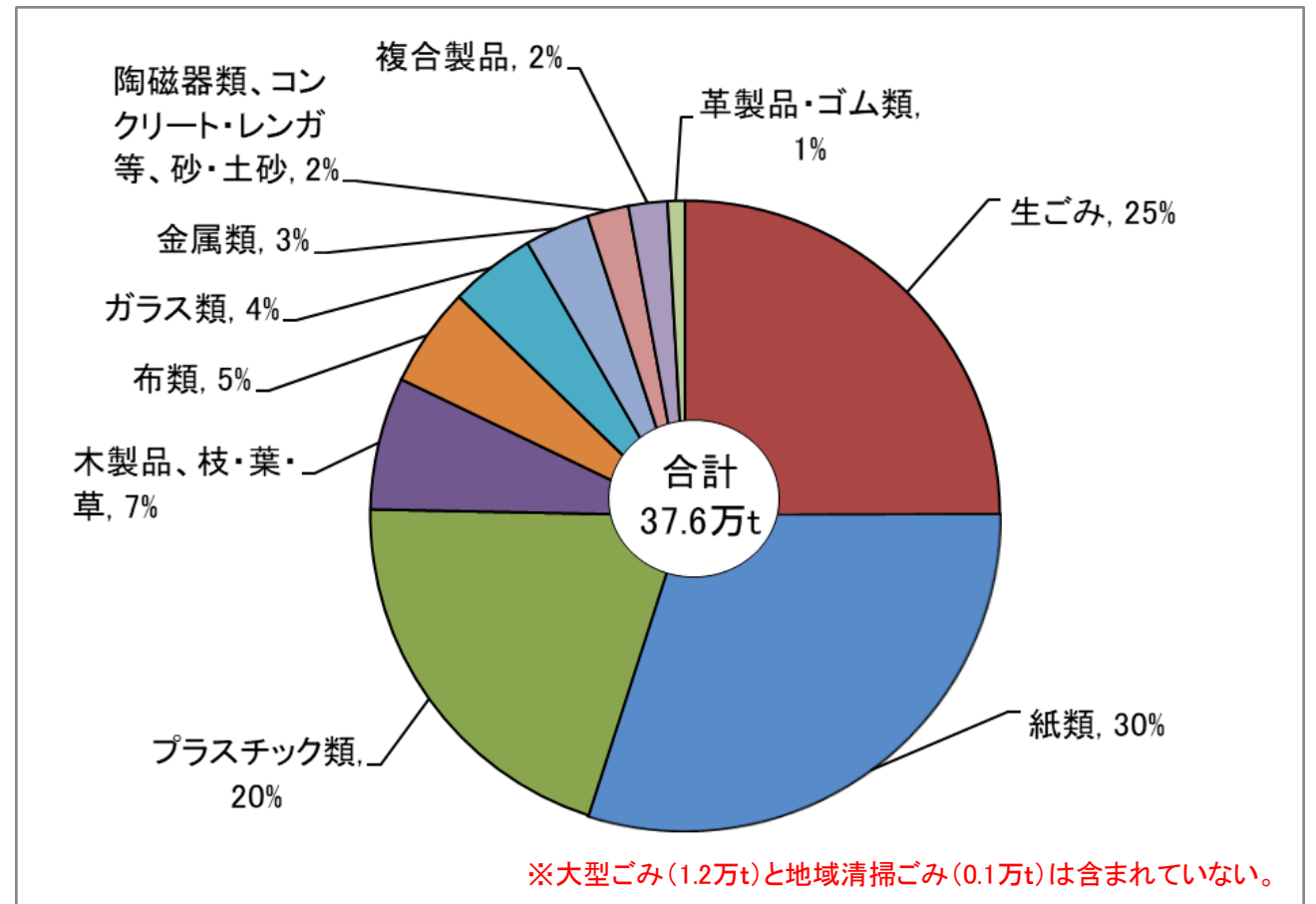
新スリムシティさっぽろ計画における目標の進捗状況について

収集区分別のごみ量

ごみ量の推移		基準年度	R3年度実績 (速報)	増減 (R3-H28)	
		H28年度実績			
家庭ごみ	燃やせるごみ ★	246,141	254,807	8,666	
	燃やせないごみ ★	16,347	13,876	▲ 2,472	
	内) 破碎	7,701	6,745	▲ 955	
	内) 埋立	8,647	7,131	▲ 1,516	
	びん・缶・ペットボトル	33,857	35,429	1,572	
	容器包装プラスチック	29,072	31,755	2,683	
	雑がみ	23,224	20,620	▲ 2,603	
	枝・葉・草	19,968	19,437	▲ 531	
	大型ごみ	10,578	12,139	1,561	
	内) 焼却 ★	10,467	11,925	1,458	
	内) 埋立 ★	0	0	0	
	内) 資源化	111	214	103	
	地域清掃ごみ ★	3,020	1,320	▲ 1,699	
	内) 焼却	2,452	844	▲ 1,608	
	内) 埋立	567	477	▲ 91	
	管路			0	
	小 計		382,207	389,384	7,177
	事業ごみ	許可業者搬入	143,642	123,783	▲ 19,859
		内) 資源化	9,057	6,577	▲ 2,480
		内) 焼却 ★	134,366	116,757	▲ 17,609
内) 埋立 ★		219	448	229	
自己搬入		65,612	53,639	▲ 11,973	
内) 資源化		2,506	2,246	▲ 260	
内) 焼却 ★		39,038	36,772	▲ 2,266	
内) 埋立 ★		24,069	14,621	▲ 9,447	
小 計		209,254	177,422	▲ 31,833	
合 計		591,462	566,806	▲ 24,656	

★印が、廃棄ごみ量

家庭ごみの組成 (R3年度実績)



<収集区分別のごみ量について>

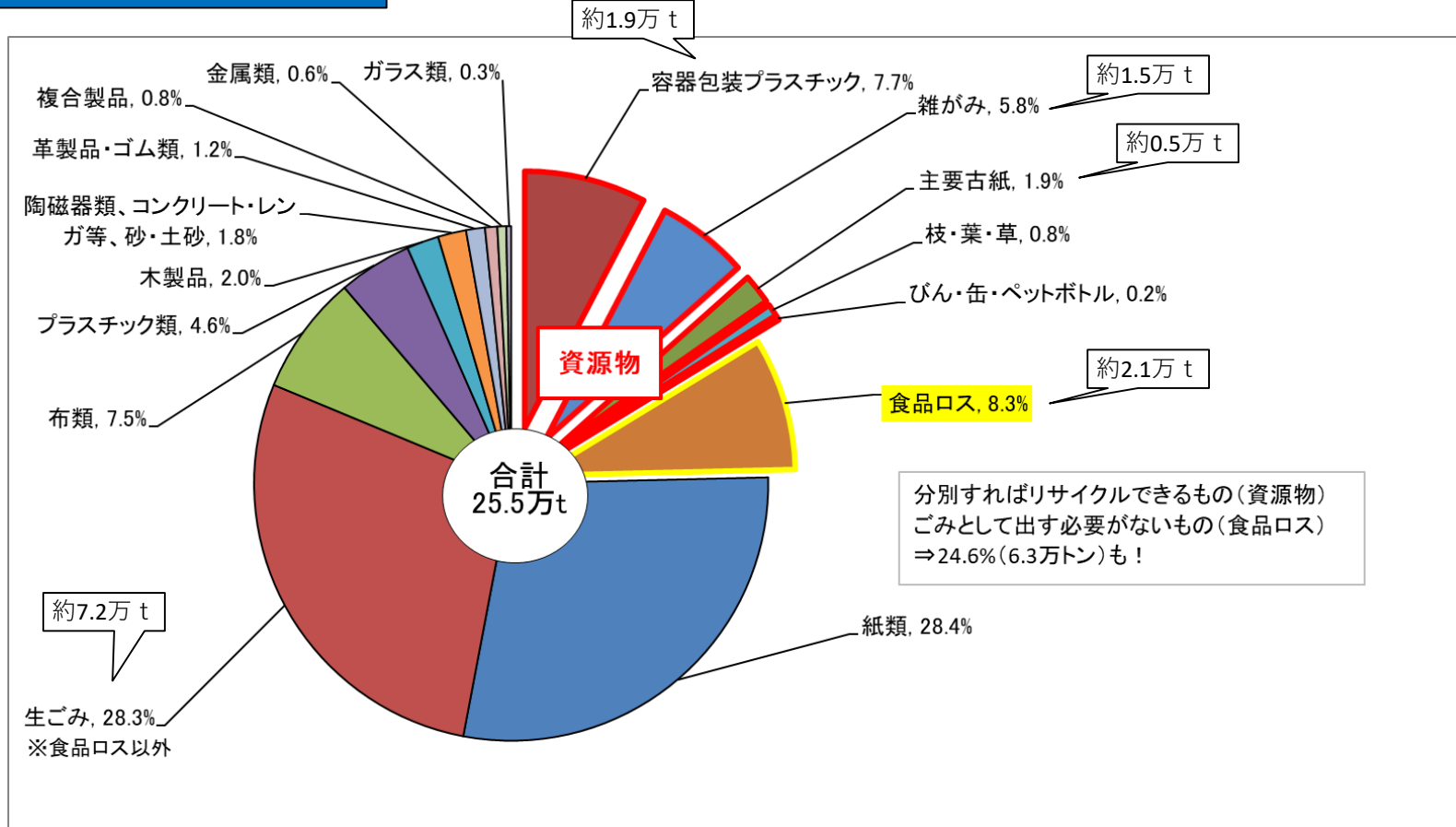
- ごみ量について基準年度であるH28とR3を比べると、左表のとおり、家庭ごみはほぼ変わらず、事業ごみは大きく減少している。
- 事業ごみにおいて大きく減っているのは、許可業者搬入の焼却分(▲約1万7千t)と自己搬入の埋立分(約9千t)。
- 事業ごみの焼却分については、R2から減少に転じていることから、新型コロナウイルスによる事業活動の縮小がその要因と推察される。
- 事業ごみの埋立分については、先に述べたR3からの廃石膏ボードの受入停止が要因。

<家庭ごみの組成について>

- 組成の割合は、H28からほぼ変わっていない。
- 家庭から出るごみは、生ごみが25%、紙類が30%、プラスチック類(ペットボトル含む)が20%と、この3種で7割強を占める。
- 家庭ごみの減量には、この3種のごみをいかに減らすかがカギとなるため、それぞれのごみが含まれる「燃やせるごみ」、「雑がみ」の分析が必要。
- 目標の一つである埋立処分量の減量には、直接影響する「燃やせないごみ」の分析が必要。

新スリムシティさっぽろ計画における目標の進捗状況について

燃やせるごみの組成



～ごみを減らすことが可能と思われるごみ種(家庭ごみ)～

【前提】家庭から出る廃棄ごみの減量目標:3.3万t(うち生ごみ1.0万t)

【ごみの減量余地(R3年度速報値から)】

<燃やせるごみとして排出されているもの>

- 容器包装プラスチック 【最大1.9万tの減】
→ きちんと分別し、容器包装プラスチックごみに排出
- 雑がみ 【最大1.5万tの減】
→ きちんと分別し、雑がみに排出
- 主要古紙 【最大0.5万tの減】
→ きちんと分別し、集団資源回収や回収拠点に排出
- 生ごみ(食品ロス分) 【最大2.1万tの減】
→ 食べきる、不要な物は買わない、人に譲る
- 生ごみ(調理くず分等) 【10%減で0.7万tの減】
→ 水切りやたい肥化

適正排出により廃棄ごみから資源物に移るため、廃棄ごみの減につながるが、ごみ排出量の減にはつながらない。

<燃やせないごみとして排出されているもの>

- 小型家電 【最大0.3万tの減】
→ 小型家電の回収拠点に排出

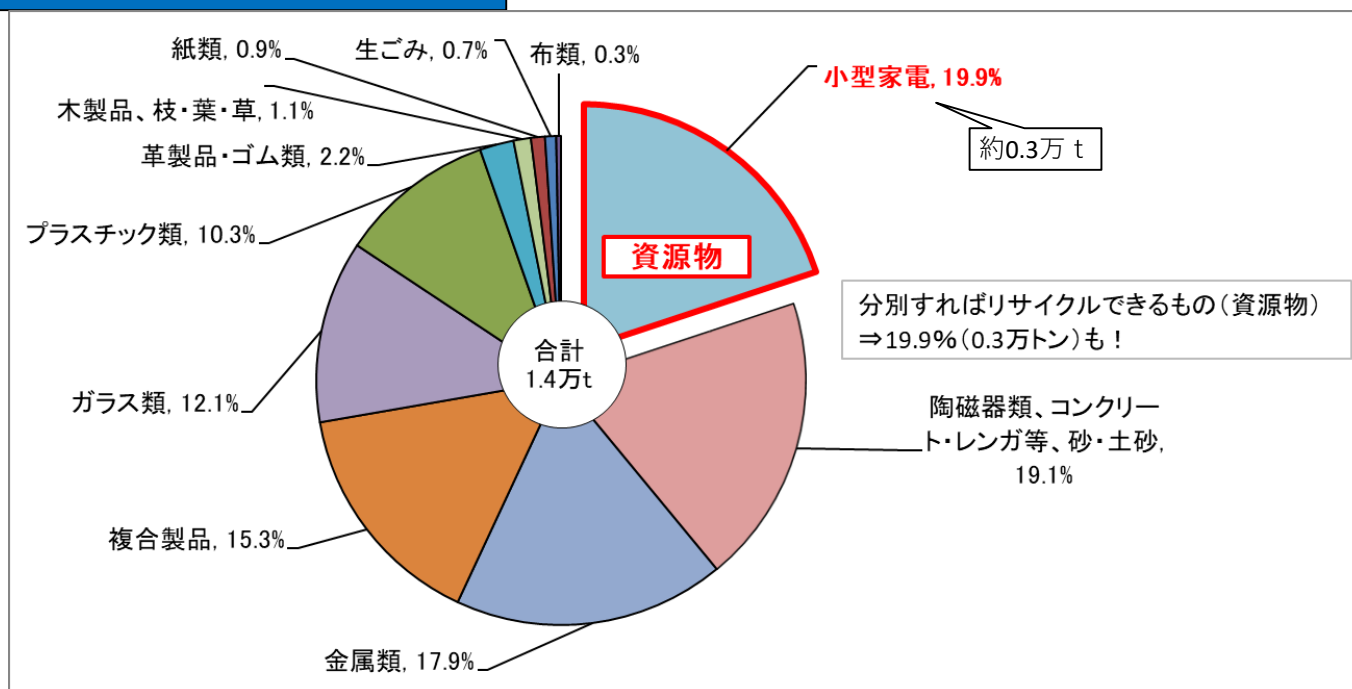
参考:上記の廃棄ごみの減量分合計 7.0万t

<雑がみとして排出されているもの>

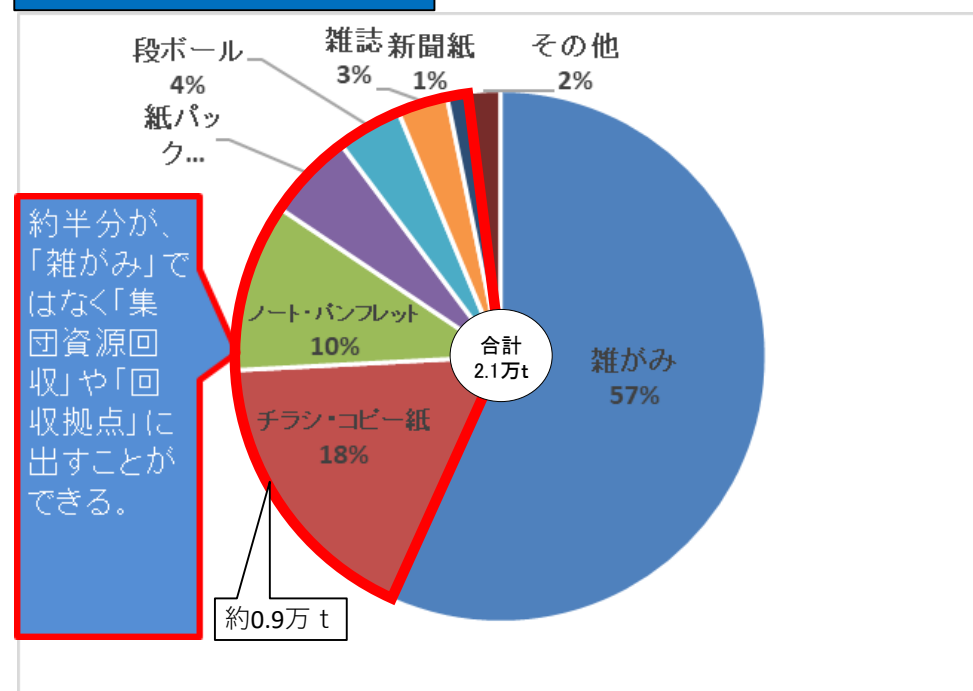
- 集団資源回収に出せる紙類 【最大0.9万tの減】
→ 集団資源回収や回収拠点に排出

集団資源回収・回収拠点に排出されることで、ごみ排出量の減につながる。

燃やせないごみの組成



雑がみの組成

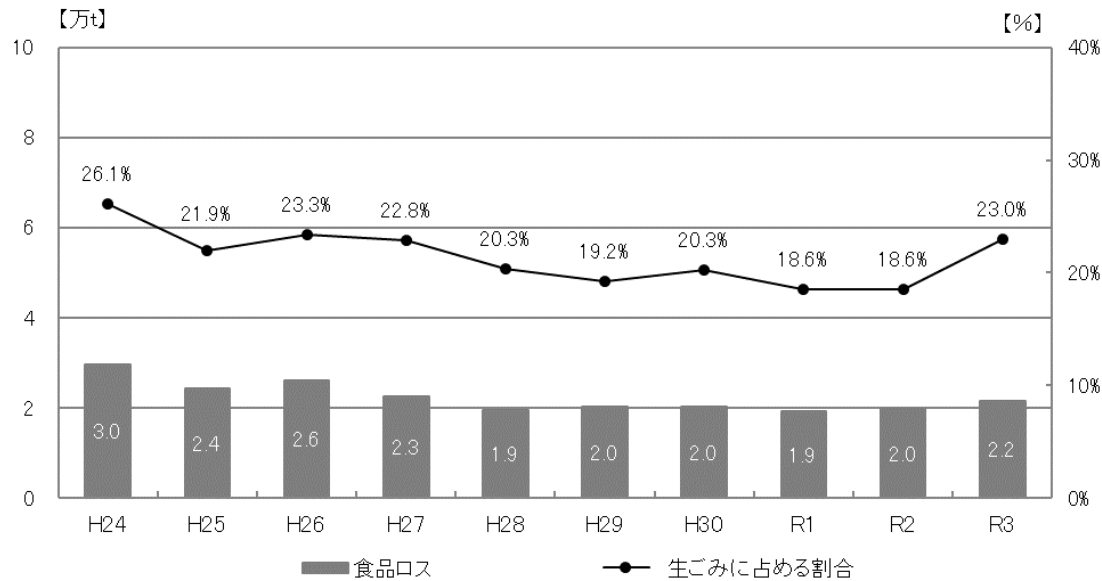


新スリムシティさっぽろ計画における目標の進捗状況について

モニター指標の状況

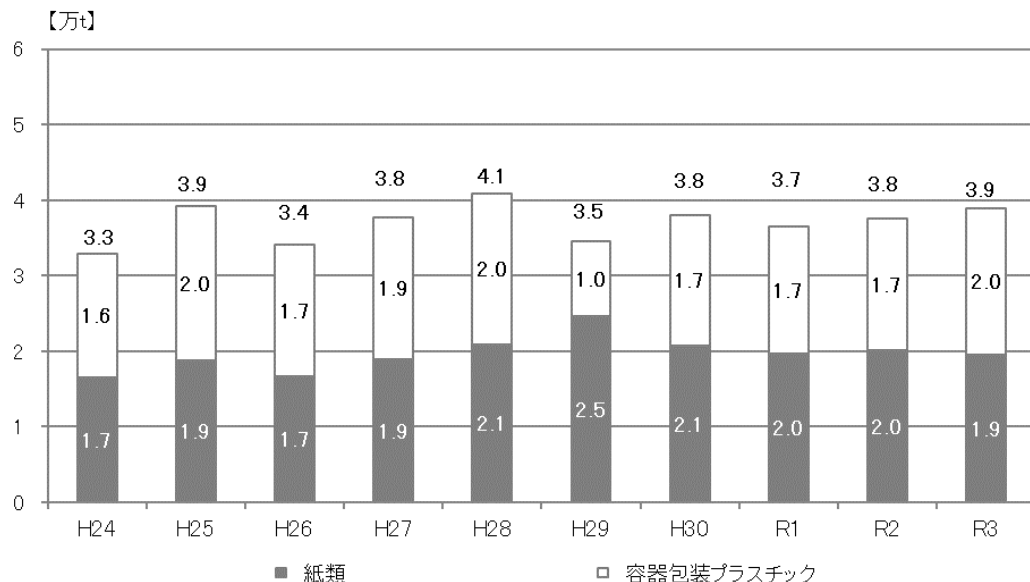
前ページで示したとおり、食品ロスの削減や燃やせるごみに含まれる紙類や容プラを減らすことは重要であるため、それを観察する指標を作成している。

1 家庭から出る食品ロス量



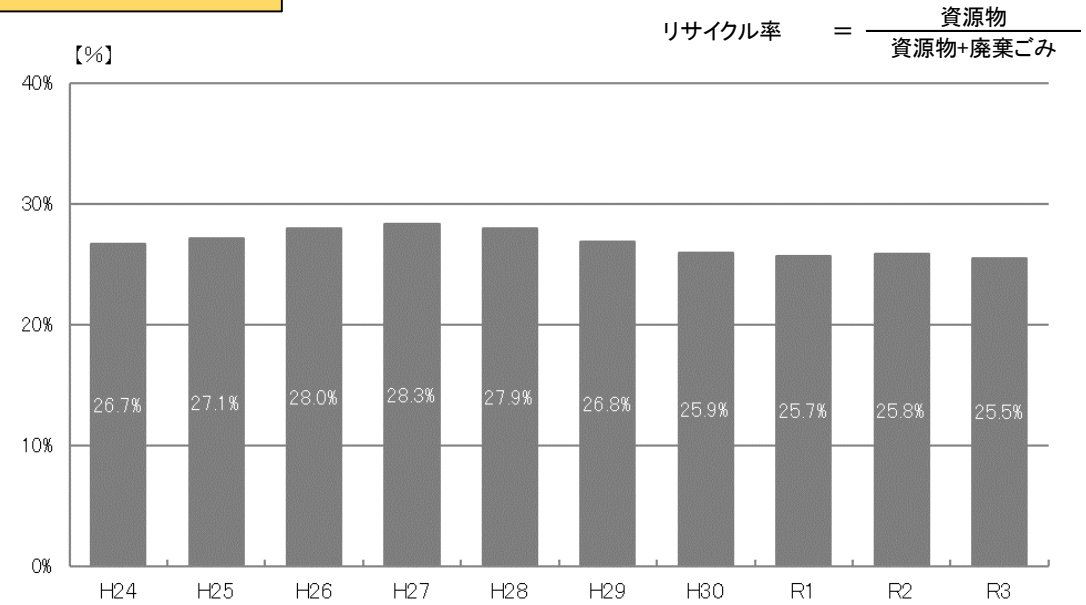
- 食品ロス量は、ほぼ横ばいの状況。
- 最近、食品ロスに関するニュースやテレビCMなどが増えてきたことから、市民の関心度は上がってくると考えられ、減らすチャンスは十分にあると考えられる。

2 燃やせるごみに含まれる紙類と容器包装プラスチックの量



- 紙・容プラの量は、ともに横ばいの状況。
- 正しい分別をするよう、更なる普及啓発が必要。

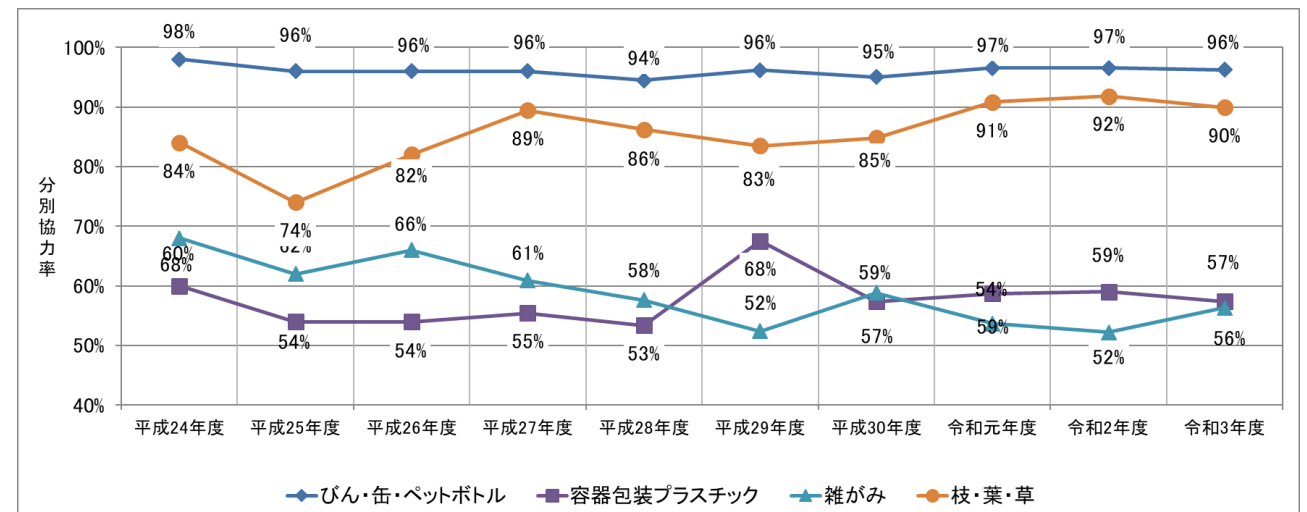
3 リサイクル率



- リサイクル率は、ほぼ横ばいか微減の状況。
- 廃棄ごみではなく資源物へ適正排出するよう、更なる普及啓発が必要

(参考) 家庭ごみの分別協力率

$$\text{分別協力率} = \frac{\text{(A)のうち、正しい分別で排出された資源物の量}}{\text{ごみSTへの排出ごみ全体に占める資源物の量(A)}}$$



- 容プラと雑がみの分別協力率は、60%未満と低い状況が続いている。
- ごみ有料化導入直後は、今よりも高い数値であったことから、協力率を上げる余地は十分にあると考えられる。

新スリムシティさっぽろ計画における目標の進捗状況について

参考情報：他都市との比較

表1：1人1日当たりごみ排出量（国・道・政令市・近隣市町村との比較）

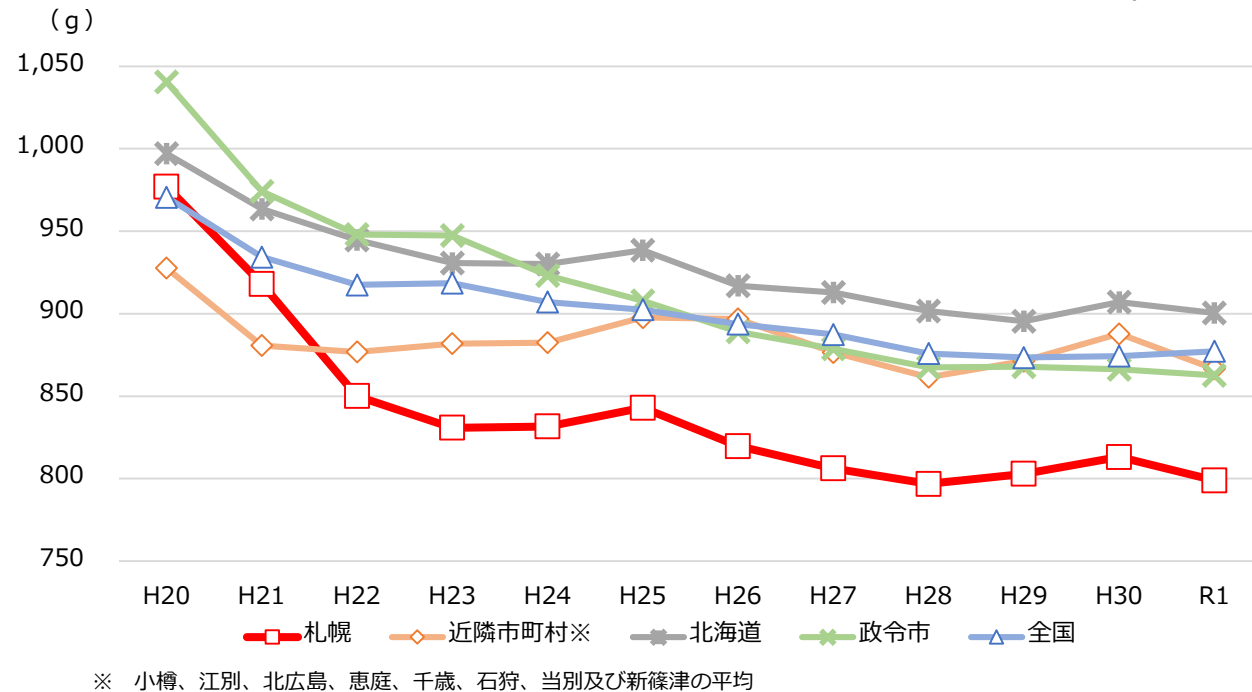


表3：1人1日当たりごみ排出量（生活系内訳）

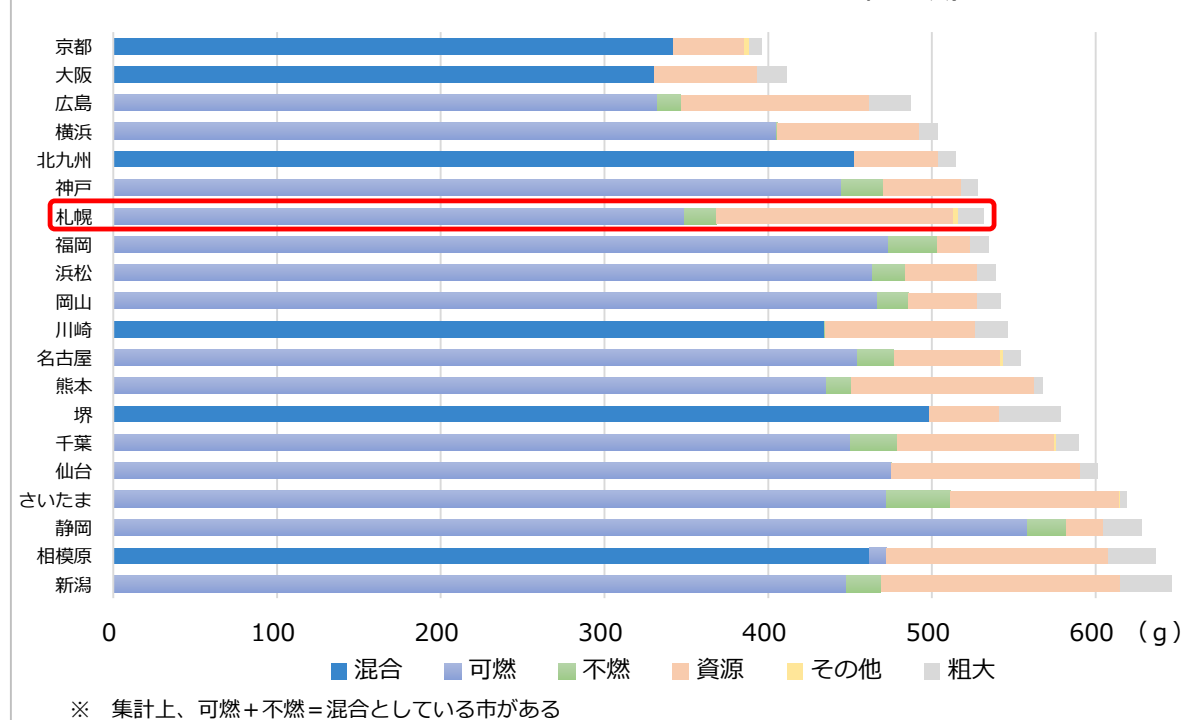


表2：1人1日当たりごみ排出量（政令市との比較）

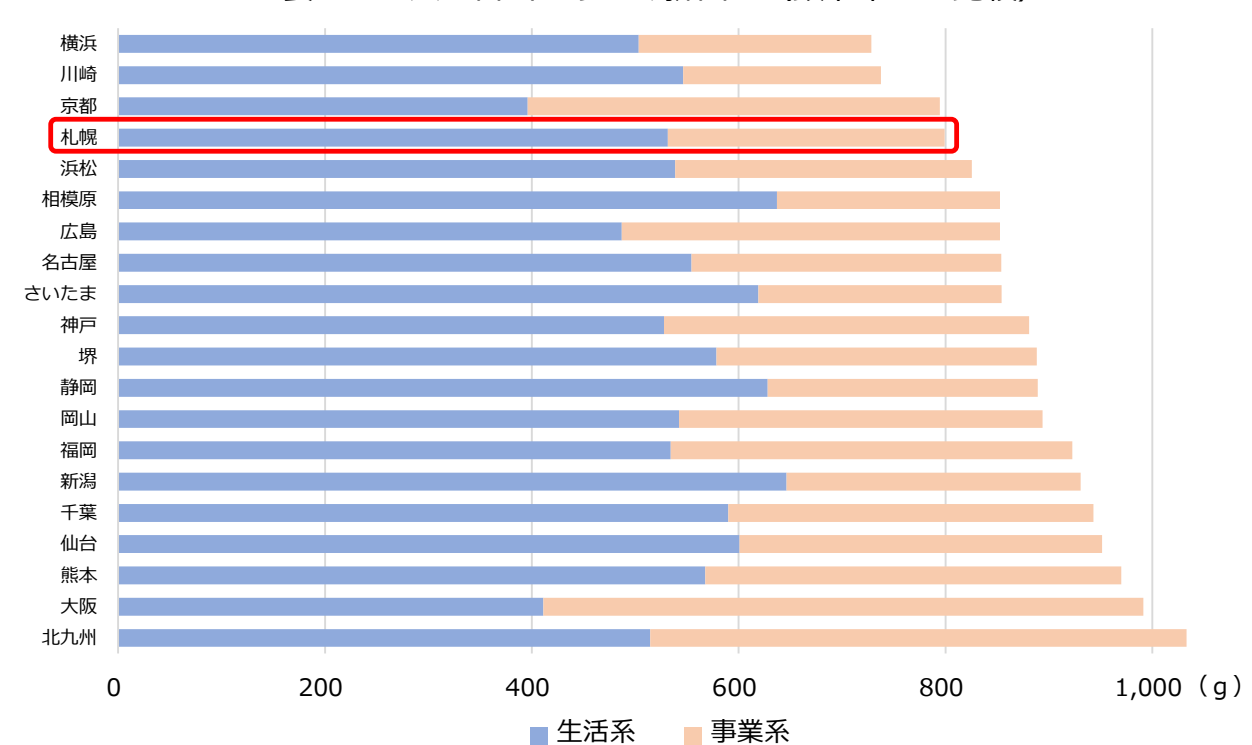
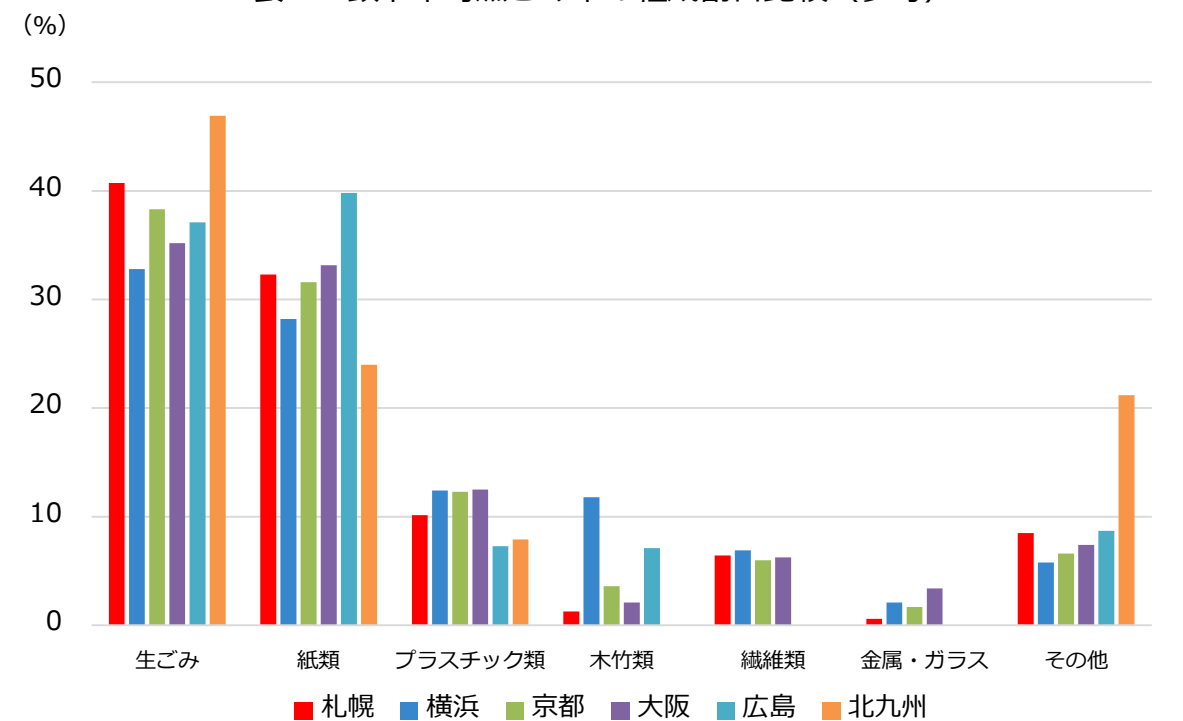


表4：政令市可燃ごみ中の組成割合比較（参考）



※ 表1～3は、環境省 令和元年度一般廃棄物処理実態調査結果より札幌市が作成（集団回収分はごみ排出量に含めていない）。
 ※ 表4は、インターネット上の各都市の公表資料から札幌市が作成。